

美瑛富士・携帯トイレブース等点検パトロール実施報告書

(2026年版)

実施年月日	令和8年10月3日(土) 令和8年10月4日(日)	団体名／所属先	山のトイレを考える会
参加人数	計10人	報告者	磯部吉克(山のトイレを考える会)

NO	点検項目	結果と措置内容
1	携帯トイレブース本体 (破損は無い、固定ロープの緩みなど)	冬囲いを外して確認したところ、ブース本体・内部ともにきれいな状態が維持されており、先般の外壁塗装後も大きな損傷等は見られなかった。なお、冬囲いに使用しているシートに傷みが見られたため、来年度に更新する予定。
2	携帯トイレブース内 (汚れていないか、便座の汚損はないかなど)	特になし
	ブース利用カウンター値	カウンター数値:90+85=175(R8年度) (参考:R7年度480)
3	小屋周辺のティッシュや汚物の散乱状況 (ティッシュや汚物の回収数の確認、その他のゴミ散乱状況確認、回収)	ティッシュ回収数:積雪状態のため不明 汚物の回収数:同上
4	小屋内外(損傷した箇所はないかなど)	屋根の腐食や雨漏り、隙間風が多く、床下の隙間から雪が吹き込み、室内にも雪が入り込んでいた。施設のさらなる老朽化が確認された。小屋内は寒く、宿泊した登山者からは「外よりも寒く感じた」との話もあり、外気の影響を強く受ける状況であった。 ※ブースを塗装した業者が、避難小屋のドアを開閉しやすいよう修理してくれていた。
5	小屋内(清掃はされているか、放置したゴミはないか、小さなゴミは回収したかなど)	清掃はされている、ゴミはない
6	回収ボックス (白金観光センター隣のトイレ横) *鍵はダイヤルキー 鍵NOは530(ごみゼロ)	施錠はされていたか:されていた(ダイヤルキーは、利用者が解錠しやすいよう工夫されていた。 ゴミはなかったか:ない ※十勝岳の噴火警戒レベルに伴う規制のため、他の回収ボックスの点検は見送った。

感想・特記事項

十勝岳噴火警戒レベル3による入山規制の影響もあり、当日はオプタテシケ山や美瑛富士方面への登山者が見られたものの、この時期としては厳しい積雪状態のため、途中で引き返した登山者もいた。

本年度は、十勝岳の噴火警戒の影響により、携帯トイレブースの利用者数が前年度と比較して半分以下となった。老朽化が進んでいる避難小屋やテント場の利用者も少なかったものと考えられる。

今回の冬囲いは、専門家等の意見も踏まえ、シートを完全に密閉せず、スカート式にすることで、内部に湿気がこもってカビが発生するのを防ぐ工夫を行った。

来年度の課題としては、ブースを囲うシートが傷んできているため、更新する必要があるとのこと。また、ブース前の通路が雨天時に水が流れる雨道となり、ぬかるみやすく利用しづらい状況であるとのことから、冬囲いを外す際には、ブースを利用しやすくなるような対策を検討する必要がある。

なお、避難小屋は、宿泊者からも隙間風が多く、屋内でも寒さを感じるとの話があり、屋根の腐食や雨漏り、床下からの雪の吹き込みなど、施設の老朽化が進んでいることが確認された。

避難小屋は登山者の安全確保に欠かせない重要な施設であり、携帯トイレブースの利用環境とも密接に関係している。今後も両施設を一体的な登山環境整備として捉え、利用実態や費用対効果を踏まえ、修繕・改修等の必要性を検討していく必要がある。

参加者名(※はリーダー)

※磯部吉克、奥野嗣之、城石謹爾、田邊考次、金田一仁志(環境省2名、美瑛町2名、美瑛山岳会1名) 計10名